

「2025年度ベトナム国家大学ハノイ校サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学文学部4年 前川 奈央

①学習成果

これまで観光目的の海外渡航は何度かありましたが、二週間という短期であるものの、留学としての海外渡航は初めてのことでした。これまでは留学というと、ごく一部の人が参加するとてもハードルの高いものという印象がありましたが、この度ベトナムサマープログラムへ応募し、その印象が大きく変わったように思います。出発前は初めて赴く国、しかも残暑残る東南アジアでほぼ初対面の班員と二週間過ごすこと、5日間の集中講義で学んだベトナム語がどの程度通用するのか、衛生面や文化の違いに耐えられるかなど不安要素は数えきれないほどありましたが、行ってしまえばどの不安もあっけなく過ぎ去っていきました。思い切ってプログラムへの参加を決めることが一番のハードルだったように思います。現地の大学では、ハノイ国家大学外国語大学の日本語授業見学などを通じて、現地の学生さん達が語学学習に打ち込む姿を見ることで、自分自身もより一層語学への関心が高まりました。思い切って参加を決めた本プログラムですが、プログラム終了後、後期授業においてもベトナム語講義を取ることを決めるなど、私にとっては語学学習の姿勢へ大きく影響を与えてくれるプログラムでした。また国際理解に関しても、現地で学習、観光、日々の生活など様々な面から支えてくださったハノイ国家大学の学生さん方に感銘を受け、今後は自分自身も日本での留学生受入れプログラム等への協力をしていければと思っています。

②海外での経験

ベトナムでの経験を通じてベトナムについて知るとともに、日本について外から眺め、その長所・短所を再認識できました。ベトナムの生活でまず衝撃を受けたのは交通量の多さと、歩行者非優先の交通ルールです。日本で暮らしていると歩行者優先であることになんの疑問も抱けなかったのですが、ベトナムでは容赦なくバイクが突っ込んできたことにはカルチャーショックを受けました。また歩道を塞ぐ路駐バイクを見るにつけ、京都市自転車回収が見たら卒倒しそうだとしみじみ思います。交通量の多さは、この先経済発展を遂げていくであろう国の首都としては納得するものがありました。

交通、衛生、ホスピタリティなど日本の優れている点を再発見する一方で、人の優しさという点ではベトナムが優っているように思いました。抽象的な評価ポイントですが、大都市とは思えないほどハノイの方々は見知らぬ他者に対しても give 精神が強いように思います。現地の文化人類学の授業で、ベトナム北部の田が細分化されているのは、社会主義・平等主義の名残だという説明を受けましたが、ハノイの人々には社会主義に基づく利他精神が根付いているのでしょうか。

③プログラム内容

ベトナム語講義、ハノイ国家大学における日本語授業見学、英語/日本語でのベトナムに関する講義、観光（チャンアン、ドウオンラム村、タンロン城）の四つが大まかな構成要素でした。ベトナム語はやはり発音が最初にして最大の難関だと思いますが、現地授業では現地の学生さんが付き添いながら発音の指摘などをしてくださり、より正確に学ぶことができたと思います。またベトナムの若者言葉など、教科書では学べない内容もあり非常に面白い時間でした。観光ではいくつかの重要な史跡を訪れました。ここでも、ガイドの方々に加えて学生さんが一つ一つの史跡について解説してくださり、個人で行くよりもずっと詳しい内容を学ぶことができました（日本語で検索しても見つけられないような内容もちらほらありました）。

④進路への影響

学部4年ということもあり卒業までごく短い期間しか残されていませんが、本プログラムを通じて国際的な活動への関心が高まりました。卒業までの間にさらに国際理解を深めるようなプロジェクトに参加したいとも思いますし、また卒業後も日本と海外の橋渡しをできるようなプロジェクトに参加、または自身で立ち上げる等していきたいと思っています。